経営比較分析表（平成28年度決算）

京都府京丹波町　国保京丹波町病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床未満	
経営形態	**診療科数**	**DPC対象病院**	**特殊診療機能　※1**	**指定病院の状況　※2**
直営	8	－	－	救　へ
人口（人）	**建物面積（㎡）**	**不採算地区病院**	**看護配置**	
14,903	4,436	第２種該当	１３：１	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
47	－	－
許可病床（精神）	**許可病床（感染症）**	**許可病床（合計）**
－	－	47
稼働病床（一般）	**稼働病床（療養）**	**稼働病床（一般＋療養）**
47	－	47

グラフ凡例
- ■ 当該病院値（当該値）
- ー 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

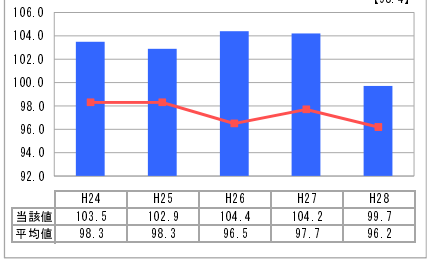
※１　ド…人間ドック　透…人工透析　Ｉ…ＩＣＵ・ＣＣＵ 未…ＮＩＣＵ・未熟児室　訓…運動機能訓練室　ガ…ガン（放射線）診療

※２　救…救急告示病院　臨…臨床研修病院　が…がん診療連携拠点病院　感…感染症指定医療機関　へ…へき地医療拠点病院　災…災害拠点病院　地…地域医療支援病院　特…特定機能病院　輪…病院群輪番制病院

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率（%）

【98.4】



	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	103.5	102.9	104.4	104.2	99.7
平均値	98.3	98.3	96.5	97.7	96.2

「経常損益」

②医業収支比率（%）

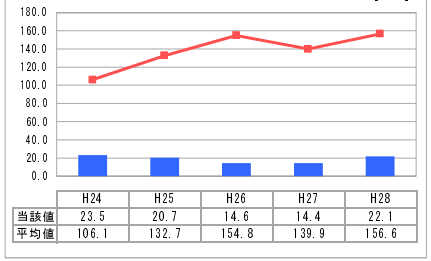
【89.5】

	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	80.2	80.6	80.8	80.0	71.4
平均値	75.4	73.2	70.5	72.2	69.5

「医業損益」

③累積欠損金比率（%）

【63.6】

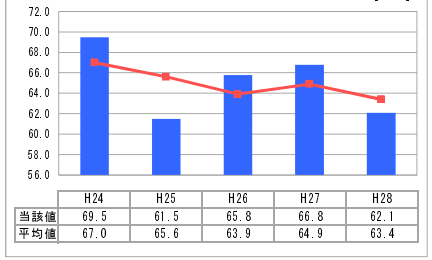


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	23.5	20.7	14.6	14.4	22.1
平均値	106.1	132.7	154.8	139.9	156.6

「累積欠損」

④病床利用率（%）

【74.2】

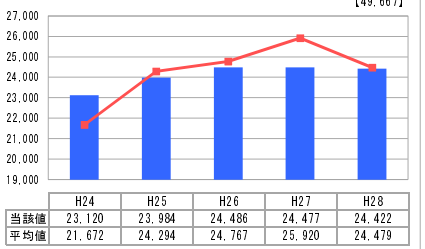


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	69.5	61.5	65.8	66.8	62.1
平均値	67.0	65.6	63.9	64.9	63.4

「施設の効率性」

⑤入院患者１人１日当たり収益（円）

【49,667】

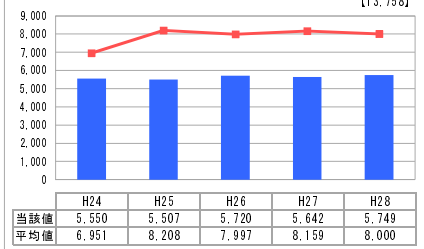


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	23,120	23,984	24,486	24,477	24,422
平均値	21,672	24,294	24,767	25,920	24,479

「収益の効率性①」

⑥外来患者１人１日当たり収益（円）

【13,758】

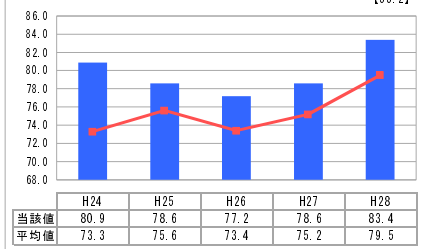


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	5,550	5,507	5,720	5,642	5,749
平均値	6,951	8,208	7,997	8,159	8,000

「収益の効率性②」

⑦職員給与費対医業収益比率（%）

【55.2】

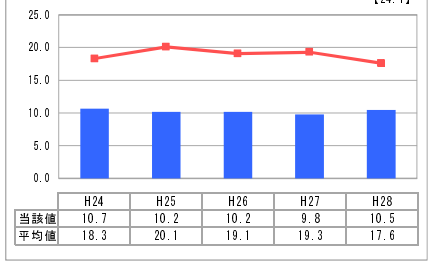


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	80.9	78.6	77.2	78.6	83.4
平均値	73.3	75.6	73.4	75.2	79.5

「費用の効率性①」

⑧材料費対医業収益比率（%）

【24.1】



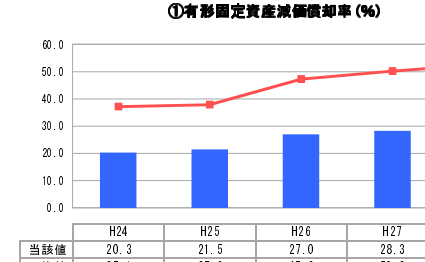
	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	10.7	10.2	10.2	9.8	10.5
平均値	18.3	20.1	19.1	19.3	17.6

「費用の効率性②」

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率（%）

【50.7】

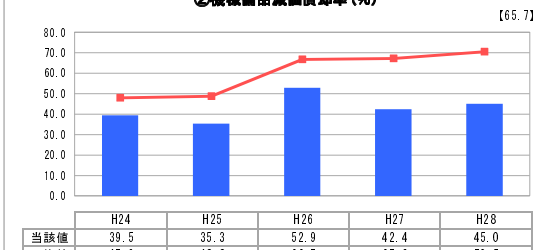


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	20.3	21.5	27.0	28.3	30.4
平均値	37.1	37.9	47.3	50.2	52.7

「施設全体の減価償却の状況」

②機械備品減価償却率（%）

【65.7】

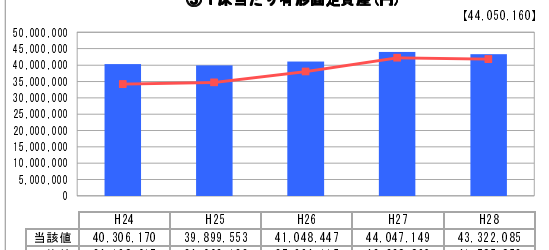


	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	39.5	35.3	52.9	42.4	45.0
平均値	47.9	48.8	66.7	67.2	70.5

「機械備品の減価償却の状況」

③１床当たり有形固定資産（円）

【44,050,160】



	H24	H25	H26	H27	H28
当該値	40,306,170	39,899,553	41,048,447	44,047,149	43,322,085
平均値	34,198,617	34,662,133	37,994,115	42,228,890	41,785,853

「建設投資の状況」

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

Ⅰ 地域において担っている役割

国保京丹波町病院は、昭和３０年５月の開設以来、開業医のいないこの地域のかかりつけ医的な役割を担って、救急対応や病床機能、公衆衛生活動を提供し地域医療を守り続けている。また、在宅医療も推進し、医療・介護・保健・福祉を継続的かつ一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の拠点病院の役割を担い、地域住民のくらしを守っている。

Ⅱ 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

入院、外来患者が大幅に減少したことにより、減収減益となり、６年ぶりに経常収支比率が１００%を下回った。病床利用率が６２%と対前年で約７ポイント下げたことが入院収益の下落の大きさを如実に示している。反対に、職員給与費対医業収益比率が対前年５ポイントプラスの８３%を超えたことで、医業収支比率が対前年で大幅にポイントを下げることとなった。一方で、患者一人当たりの入院、あるいは外来収益はここ数年横ばいで推移している。外来患者の一人当たり収益が平均値を下回っているのが目立つが、これは内科患者が多く、また高齢者層が多いことが多きいと考える。今後は、職員の配置に見合った収益を上げるために、患者数の増加と職員給与費の削減に注力しないといけない。

2. 老朽化の状況について

取得価格の全体に占める割合の多きい国保京丹波町病院は平成１６年に新築した鉄筋コンクリート造の建物のため、耐用年数が長く有形固定資産減価償却率は低い水準である。１床当たり有形固定資産の額が若干平均値を上回っているが、これは４７床の小規模な施設のためである。

全体総括

入院、外来患者の減少が大きい１年となった。大きな要因として、医師確保に対する不断の努力にもかかわらず、常勤医師の確保に難航したことが挙げられる。日替わり、月替わりの非常勤医師の雇用により一時的な体制確保はできるが、かかりつけ医にはなりきれず患者の定着に繋がらなかった。反面、賃金の増加に拍車がかかり医業収支比率を大幅に悪化させることになった。
引き続き、医師確保に努力し、経費節減に努めることで、新公立病院改革プランに沿った健全経営に取り組んでいく。